

0-1

新型コロナウイルス流行早期における抗体保有率の調査

○石川 知弘、高橋 知里、布矢 純一、
佐藤 洋隆、篠崎 由季、増田 道明

獨協医科大学 微生物学

2019 年末に中国の武漢で発生した新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) による感染症 (COVID-19) は、2020 年 3 月に世界保健機関 (WHO) によりパンデミックが宣言され、世界的に大きな影響を及ぼしている。日本でも流行早期から社会不安が高まる中で、医療系教育機関としてコロナ禍における業務改善に取り組むためには、まず現状を客観的に把握することが重要であると考えられた。そこで、2020 年 5 月から 7 月にかけて、学生と教職員の一部 (計 200 名) を対象として SARS-CoV-2 に対する抗体保有状況を調査することとした。当該調査に関して、倫理面での配慮、実施方法および結果について示し、その意義を考察する。

0-2

コロナ禍—ピンチをチャンスに。医療現場における ICT 化の取り組み—

○柴崎 郁子、小川 博永、武井 祐介、
手塚 雅弘、関 雅浩、加藤 昂、
大橋 裕恭、斎藤 俊輔、緒方 孝治、
福田 宏嗣

獨協医科大学 心臓・血管外科学

コロナ禍において、医療現場はリモートワークができない職場であり、そういった環境の中でも ICT を利用した日常診療での我々の試みを紹介する。

カンファレンスは、当科での診療以外に内科や多職種とのカンファレンスが多く、情報共有をするため Microsoft teams を用いるようになった。Web 会議システムの構築により、3 密を避けそれぞれのチームでの web カンファを行うようになり、ラジオ参加など様々なスタイルで参加可能となった。土日も web カンファにより、非番のスタッフと患者情報を共有することができ、安心した管理を行うことができた。今回のコロナ禍をきっかけに医療業界も society5.0 を目指す取り組みをし、患者診療に繋げる試みが必要である。